第４章

結果述補句

p.88の(3)

本章では，第2章「主述句」と第3章「述目句」を踏まえ，主述句と述目句より複雑な結果述補句について考察する。まずは，述補句を概観する。次に，結果述補句を含む動詞性主述句における述語事態，補語事態，実体の3者が互いに関与する仕方の違いによって動詞性主述句を分類し，それぞれの意味構造を分析する。その上で，結果述補句の分類を行い，それらの意味構造を分析して図示する。

1　述補句の種類

“述补短语”，すなわち述補句は，複数の語句が述語と補語の関係で結合することによって構成される句である。

一般に，述補句の前の部分（述語）は，事態を表す語句であり，後ろの部分（補語）は，その事態を補足説明する語句である。具体的には，補語は，次のことを表す。

(1) 事態の結果
- a 写〈错〉
  書く　正しくない　（書き間違える）
- b 打〈死〉
  殴る　死ぬ　（殴り殺す）
- c 说〈清楚〉
  言う　はっきりしている　（はっきり言う）

(2) 事態の方向や趨勢
- a 进〈去〉
  入る　行く　（入って行く）
- b 跑〈来〉
  走る　来る　（走って来る）
- c 拿〈出〉
  持つ　出る　（持ち出す）

(3) 事態の実現可能・不可能

a 看 得〈懂〉
読む 補語標識 分かる (読んで理解できる)

b 吃 得〈了〉
食べる 補語標識 終わる (食べきれる)

c 洗 得〈干浄〉
洗う 補語標識 きれいだ (きれいに洗うことができる)

(4) 事態の描写

a 唱 得〈好〉
歌う 補語標識 うまい (うまく歌う)

b 高兴 得〈哈哈 大笑〉
楽しい 補語標識 あははっと 大笑いする
(あははっと大笑いするほど楽しい)

c 干浄 得〈一点 灰尘 都 没有〉
きれいだ 補語標識 少し ちり も ない
(ほんの少しのちりもないほどきれいだ)

(5) 事態の程度

a 忙〈极〉了
忙しい ひどく 語気助詞 (とても忙しい)

b 累〈死〉了
疲れる ひどく 語気助詞 (死ぬほど疲れる)

c 乐〈坏〉了
うれしい ひどく 語気助詞 (うれしくてたまらない)

(6) 事態の時期や場所

a 生〈于 1949年〉
生まれる に 1949年 (1949年に生まれる)

b 驶〈向 太平洋〉
走らせる に 太平洋 (太平洋に向けて出航する)

c 选〈自 《人民日报》〉
選ぶ から 『人民日報』 (『人民日報』から選ぶ)

(7) 事態の回数や期間

a 念〈一遍〉
読む 1回 (1回読む)

b 住 了〈三年〉
住む た 三年 (三年間住んだ)

c 大〈两岁〉
大きい 二歳 (二歳年上だ)

述補句は，上述の補語の意味や機能に応じて，結果述補句，方向・趨勢述補句，可能述補句，描写述補句，程度述補句，時期・場所述補句，回数・期間述補句に分類することができる。

そのうち結果述補句の形式は，次のように表示することができる。

$\{_{述語}$動詞性語句$\}\{_{補語}$動詞・形容詞性語句$\}$

2 結果述補句を含む動詞性主述句の分類

結果述補句

$\{_{述語}$動詞性語句$\}\{_{補語}$動詞・形容詞性語句$\}$

は，主語としての語句とともに動詞性主述句を構成している。

$\{_{主語}$語句$\}\{\{_{述語}$動詞性語句$\}\{_{補語}$動詞・形容詞性語句$\}\}$

或いは，目的語としての語句とともに述目句

$\{\{_{述語}$動詞性語句$\}\{_{補語}$動詞・形容詞性語句$\}\}\{_{目的語}$語句$\}$

を構成してから，主語としての語句とともに動詞性主述句

$\{_{主語}$語句$\}\{\{\{_{述語}$動詞性語句$\}\{_{補語}$動詞・形容詞性語句$\}\}\{_{目的語}$語句$\}\}$

を構成している。

本章は，結果述補句の意味構造を分析するが，まずは結果述補句を含む動詞性主述句

$\{_{主語}$語句$\}\{\{_{述語}$動詞性語句$\}\{_{補語}$動詞・形容詞性語句$\}\}$

$\{_{主語}$語句$\}\{\{\{_{述語}$動詞性語句$\}\{_{補語}$動詞・形容詞性語句$\}\}\{_{目的語}$語句$\}\}$

を分析することにする。

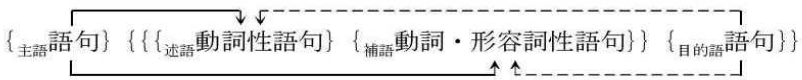
上の動詞性主述句では，述語が表すのは，事態であり，補語が表すのは，事態または補助事態である。以下の論述の便宜のために，前者を述語事態と呼び，後者を補語事態と呼ぶことにする。

述語事態，補語事態，主語や目的語のさす実体は，互いに異なる仕方で関与している。関与の仕方によって，結果述補句を含む動詞性主述句は，主に下記の5種類に分類することができる。

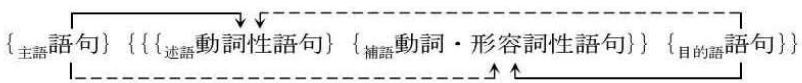
（8）においては，実線矢印は，主語や目的語のさす実体が主体として述語事態や補語事態に関与することを示し，破線矢印は，別の関与の仕方を示している。詳しくは，次の節で述べる。

（8）　a

b



c



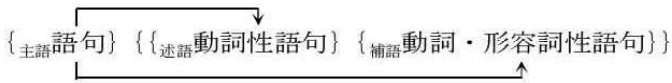
d

e

3　結果述補句を含む動詞性主述句の意味構造

3.1　（8a）の意味構造

（8a）



（8a）では，主語のさす実体が主体として述語事態と補語事態の両方に関与している。（9）は，（8a）の例である。

（9）

（9a）では述語事態“摔”に“他”のさす実体が主体として関与している。動詞“摔”が格フレーム“＜2＞当事＋V（V＝一項内動詞）”を持っているので，“他”の深層格は，当事となっている[1]。

当事＝非自発的な動作，行為，状態の主体

一方，補語事態“倒”に“他”のさす実体が主体として関与している。動詞“倒”が格フレーム“＜2＞当事＋V（V＝一項内動詞）”を持っているので，“他”の深層格は，当事となっている。

よって，（9a）の意味構造は，

① $_{当事}$他－$_{一項内動詞的}$摔

② $_{当事}$他－$_{一項内動詞的}$倒－$_{時間的局面}$了[2]

となると考えられる。図1は，その図示である。

図1（及び図2と図3）では，上の長い水平線が述語事態を示し，下の長い水平線が補語事態を示し，垂直線が述語事態と補語事態の主体を示している。長い水平線の上下の順序は，述語と補語の語順に従っている。短い水平線は，“了”の表す補助事態を示している。

1　格フレーム“＜1＞施事＋V（V＝一項自動詞）”，“＜2＞当事＋V（V＝一項内動詞）”，“＜3＞施事＋V＋受事（V＝二項他動詞）”，“＜30＞当事＋V＋客事（V＝二項外動詞）”については，第3章「述目句」の 3.2節「格フレームと格フレームのタイプ」を参照されたい。

2　“了”については，第2章「主述句」の 5.3節「一項動詞性主述句と付加成分」を参照されたい。

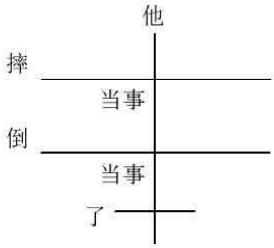


図1（9a）の意味構造の図示

（9b）では，述語事態“走”に“我”のさす実体が主体として関与している。動詞“走”が格フレーム“＜1＞施事＋V（V＝一項自動詞）”を持っているので，“我”の深層格は，施事となっている。

施事＝自発的な動作，行為，状態の主体

一方，補語事態“累”に“我”のさす実体が主体として関与している。“累”が形容詞であるので，“我”の深層格は，当事となっている[3]。

（9b）の意味構造は，

① $_{施事}$我－$_{一項自動詞的}$走

② $_{当事}$我－$_{形容詞的}$累－$_{時間的局面}$了

となると考えられる。図2は，その図示である。

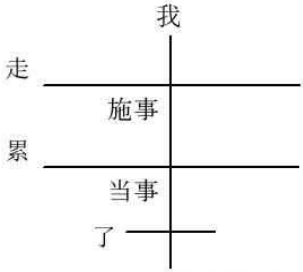


図2　（9b）の意味構造の図示

（9）の分析に基づいて，結果述補句を含む動詞性主述句（8a）の意味構造は，

① 述語事態主体－述語事態

② 補語事態主体－補語事態 $_{（述語事態主体＝補語事態主体＝主語のさす実体）}$

と整理することができると考えられる。図3は，その図示である。

3　第2章「主述句」の4.2節「形容詞性主述句の意味構造と図示」を参照されたい。

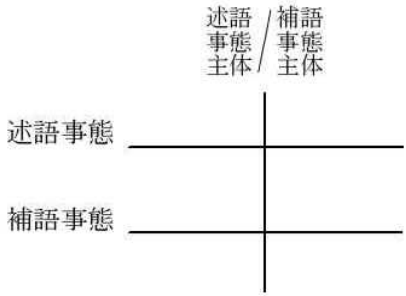
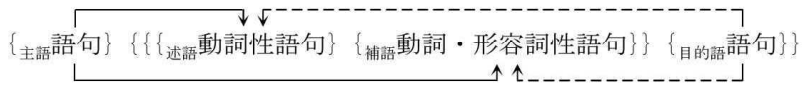


図3　（8a）の結果述補句を含む動詞性主述句の意味構造の図示

3.2　（8b）の意味構造

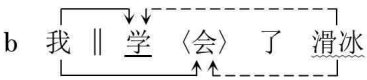
（8b）



（8b）では，主語のさす実体は，主体として述語事態と補語事態に関与しており，目的語のさす実体は，客体として述語事態と補語事態に関与している。（10）は，（8b）の例である。

（10）

私　聞く 分かる　た　彼　の　話　（私が彼の話を聞いて分かった）



私　学ぶ できる　た　スケート　（私がスケートを学んで身に付けた）

（10a）では，述語事態“听”に“我”と“他的话”のさす実体がそれぞれ主体と客体として関与している。動詞“听”が格フレーム“＜3＞施事＋V＋受事（V＝二項他動詞）”を持っているので，“我”と“他的话”の深層格は，それぞれ施事と受事となっている。

受事＝自発的な動作，行為に関わる客体

一方，補語事態“懂”に“我”と“他的话”のさす実体がそれぞれ主体と客体として関与している。動詞“懂”が格フレーム“＜30＞当事＋V＋客事（V＝二項外動詞）”を持っているので，“我”と“他的话”の深層格は，それぞれ当事と客事となっている。

客事＝非自発的な動作に関わる客体

よって，（10a）の意味構造は，

① $_{施事}$我－$_{二項他動詞的}$听－$_{受事}$他的话

② $_{当事}$我－$_{二項外動詞的}$懂－$_{客事}$他的话－$_{時間的局面}$了

となると考えられる。図4は，その図示である。

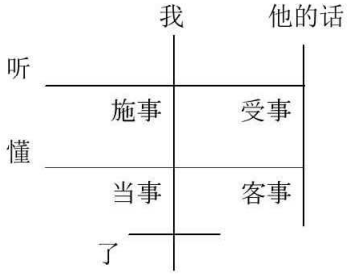


図4　（10a）の意味構造の図示

図4（及び図5と図6）では，上の長い水平線が述語事態を示し，下の長い水平線が補語事態を示し，中央の垂直線が述語事態と補語事態の主体を示し，右側の垂直線が述語事態と補語事態の客体を示している。長い水平線の上下の順序は，述語と補語の語順に従っている。短い水平線は，“了”の表す補助事態を示している。

（10b）では，述語事態“学”に“我”と“滑冰”のさす実体がそれぞれ主体と客体として関与している。動詞“学”が格フレーム　“＜3＞施事＋V＋受事（V＝二項他動詞）”を持っているので，“我”と“滑冰”の深層格は，それぞれ施事と受事となっている。
一方，補語事態“会”に“我”と“滑冰”のさす実体がそれぞれ主体と客体として関与している。動詞“会”が格フレーム　“＜30＞当事＋V＋客事（V＝二項外動詞）”　を持っているので，“我”と“滑冰”の深層格は，それぞれ当事と客事となっている。

（10b）の意味構造は，

① $_{施事}$我－$_{二項他動詞的}$学－$_{受事}$滑冰

② $_{当事}$我－$_{二項外動詞的}$会－$_{客事}$滑冰－$_{時間的局面}$了

となると考えられる。図5は，その図示である。

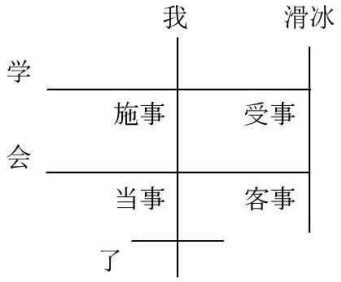


図5　（10b）の意味構造の図示

（10）の分析に基づいて，結果述補句を含む動詞性主述句（8b）の意味構造は，

① 述語事態主体－述語事態－述語事態客体

② 補語事態主体－補語事態－補語事態客体

（述語事態主体＝補語事態主体＝主語のさす実体；　述語事態客体＝補語事態客体＝目的語のさす実体）

と整理することができると考えられる。図6は，その図示である。

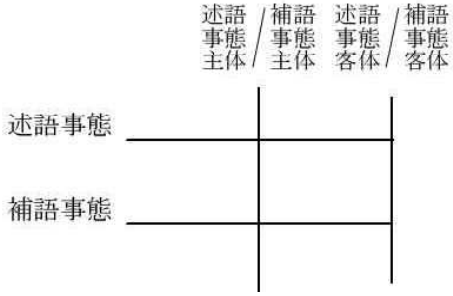


図6　（8b）の結果述補句を含む動詞性主述句の意味構造の図示

3.3　（8c）の意味構造

（8c）

（8c）では，主語と目的語のさす実体は，述語事態には，それぞれ主体と客体として関与しているが，補語事態には，それぞれ客体と主体として関与している。（11）は，（8c）の例である。

（11）

a　部队 ‖ 打 〈退〉 了 敌人

部隊　攻撃する 撤退する　た　敵　　（部隊が敵を攻撃して退ける）

b　孩子 们 ‖ 点 〈着〉 了 鞭炮

子供　たち　火を付ける 火が付く　た　爆竹　　（子供たちが爆竹に点火した）

（11a）では，述語事態“打”に“部队”と“敌人”のさす実体がそれぞれ主体と客体として関与している。動詞“打”が格フレーム“＜3＞施事＋V＋受事（V＝二項他動詞）”を持っているので，“部队”と“敌人”の深層格は，それぞれ施事と受事となっている。一方，補語事態“退”に“敌人”のさす実体が主体として関与している。動詞“退”が格フレーム“＜1＞施事＋V（V＝一項自動詞）”を持っているので，“敌人”の深層格は，施

事となっている。

また，“敌人”のさす実体が補語事態“退”に関与することを，“部队”のさす実体が引き起こすので，“部队”のさす実体が客体として補語事態“退”にも関与していると考えられる。その深層格は，原因である。

原因＝事態を引き起こす原因

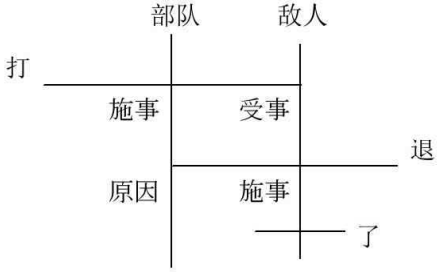


図7　（11a）の意味構造の図示

よって，（11a）の意味構造は，

① $_{施事}$部队－$_{二項他動詞的}$打－$_{受事}$敌人

② $_{施事}$敌人－$_{一項自動詞的}$退－$_{原因}$部队－$_{時間的局面}$了

となっている。図7は，その図示である。

この意味構造は，

① $_{施事}$部队－$_{二項他動詞的}$打－$_{受事}$敌人

② $_{施事}$敌人－$_{一項自動詞的}$退－$_{時間的局面}$了

の両者が図8のような過程を経て合成されるものであると考えられる。

合成の過程Ⅰでは，“敌人”のさす実体が事態“退”に関与することを，“部队”のさす実体が引き起こすので，“部队”が原因として事態“退”に接するようになる。Ⅱでは，2つの“敌人”が同一人物なので，1つに結合される。

（11b）では，述語事態“点”に“孩子们”と“鞭炮”のさす実体がそれぞれ主体と客体として関与している。動詞“点”が格フレーム“＜3＞施事＋V＋受事（V＝二項他動詞)”を持っているので，“孩子们”と“鞭炮”の深層格は，それぞれ施事と受事となっている。一方，補語事態“着”に“鞭炮”のさす実体が主体として関与している。動詞“着”が格フレーム“＜2＞当事＋V（V＝一項内動詞）”を持っているので，“鞭炮”の深層格は，当事となっている。

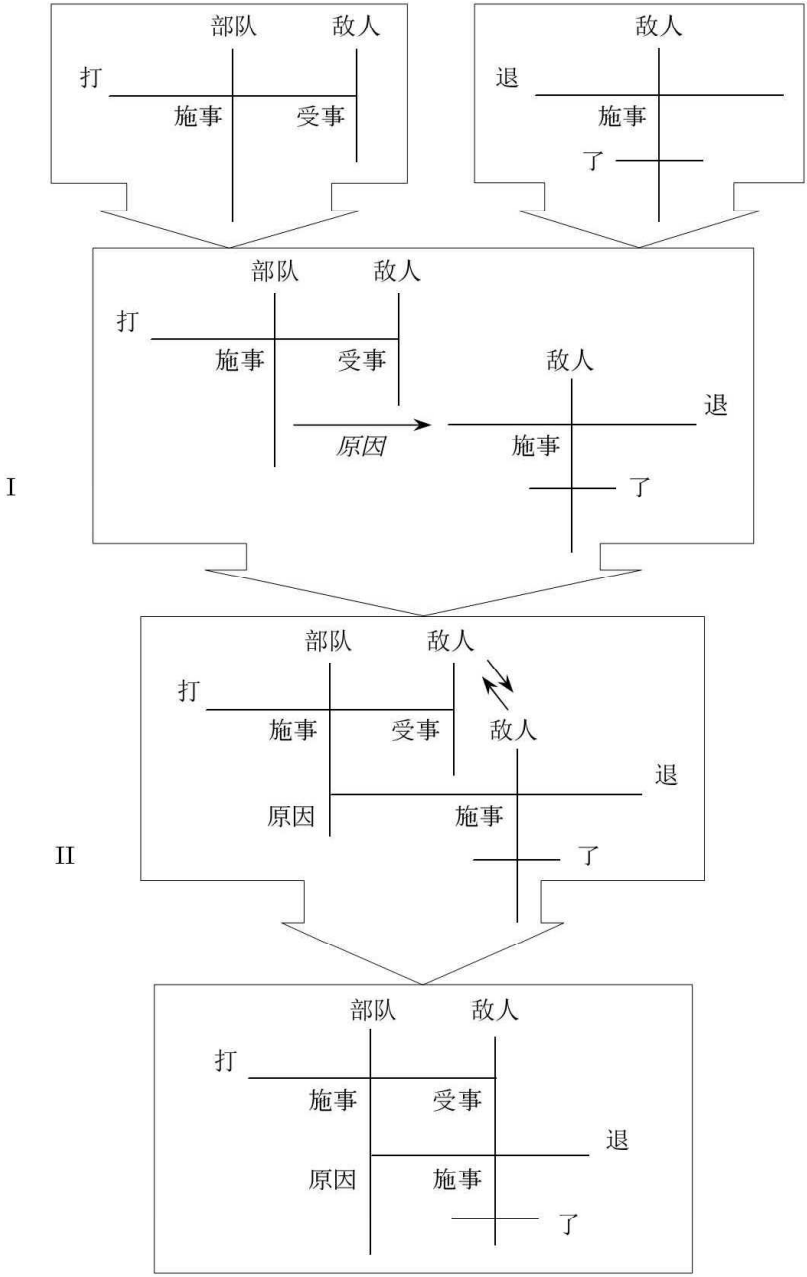


図8　(11a) の意味構造の合成

また，“鞭炮”のさす実体が補語事態“着”に関与することを，“孩子们”のさす実体が引き起こすので，“孩子们”のさす実体が客体として補語事態“着”にも関与していると考えられる。その深層格は，原因である。

（11b）の意味構造は，

① $_{施事}$孩子们－$_{二項他動詞的}$点－$_{受事}$鞭炮

② $_{当事}$鞭炮－$_{一項内動詞的}$着－$_{原因}$孩子们－$_{時間的局面}$了

となっている。図9は，その図示である。

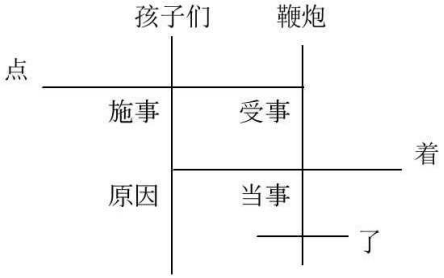


図9　（11b）の意味構造の図示

（11a）と同様に，（11b）の意味構造

① $_{施事}$孩子们－$_{二項他動詞的}$点－$_{受事}$鞭炮

② $_{当事}$鞭炮－$_{一項内動詞的}$着－$_{原因}$孩子们－$_{時間的局面}$了

は，

① $_{施事}$孩子们－$_{二項他動詞的}$点－$_{受事}$鞭炮

② $_{当事}$鞭炮－$_{一項内動詞的}$着－$_{時間的局面}$了

の2者が図10のような過程を経て合成されるものであると考えられる。

合成の過程Ｉでは，“鞭炮”のさす実体が事態“着”に関与することを，“孩子们”のさす実体が引き起こすので，“孩子们”が原因として事態“着”に接するようになる。Ⅱでは，2つの“鞭炮”が同一の物事なので，1つに結合される。

（11）の分析に基づいて，結果述補句を含む動詞性主述句（8c）の意味構造は，

① 述語事態主体－述語事態－述語事態客体

② 補語事態主体－補語事態－$_{原因}$補語事態客体

（述語事態主体＝補語事態客体＝主語のさす実体；　述語事態客体＝補語事態主体＝目的語のさす実体）

と整理することができると考えられる。図11は，その図示である。

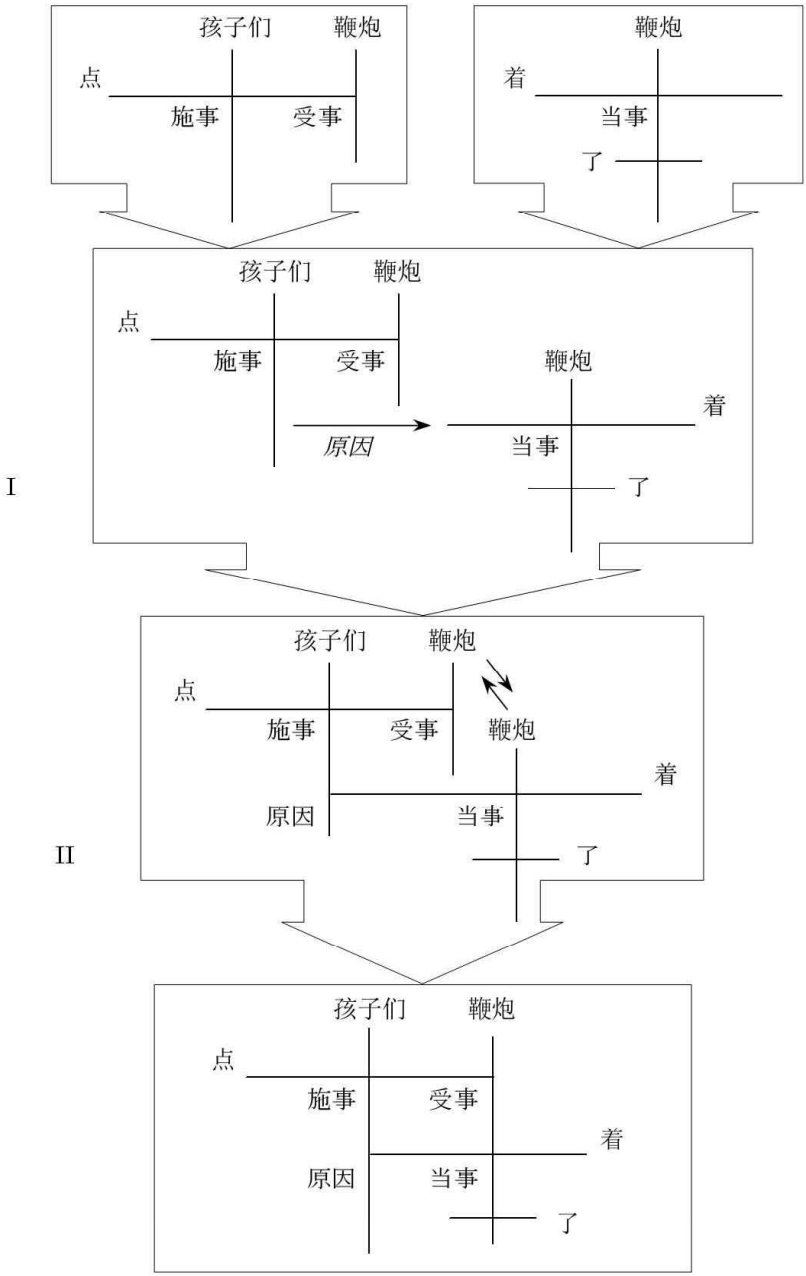


図10　（11b）の意味構造の合成

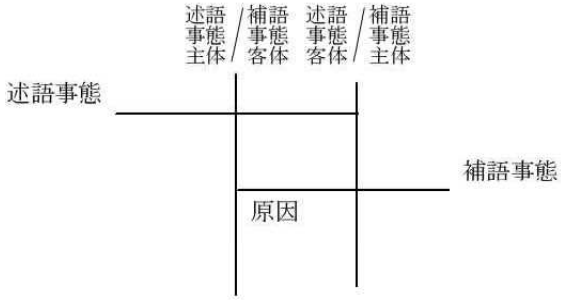
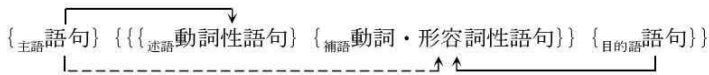


図11　（8c）の結果述補句を含む動詞性主述句の意味構造の図示

3.4　（8d）の意味構造

（8d）



（8d）では，主語のさす実体は，述語事態には，主体として関与しているが，主語と目的語のさす実体は，補語事態には，それぞれ客体と主体として関与している。（12）は，（8d）の例である。

（12）

彼女　泣く　赤い　た　目　（彼女が泣いて目を真っ赤にした）

みんな　笑う　痛む　た　腹　（みんなが笑って腹が痛くなった）

（12a）では，述語事態“哭”に“她”のさす実体が主体として関与している。動詞“哭”が格フレーム“＜1＞施事＋V（一項自動詞）”を持っているので，“她”の深層格は，施事となっている。一方，補語事態“红”に“眼睛”のさす実体が主体として関与している。“红”が形容詞であるので，“眼睛”の深層格は，当事となっている。

また，“眼睛”のさす実体が補語事態“红”に関与することを，“她”のさす実体が引き起こすので，“她”のさす実体が客体として補語事態“红”にも関与していると考えられる。その深層格は，原因である。

よって，（12a）の意味構造は，

① $_{施事}$她－$_{一項自動詞的}$哭

② $_{当事}$眼睛－$_{形容詞的}$红－$_{原因}$她－$_{時間的局面}$了

となっている。図12は，その図示である。

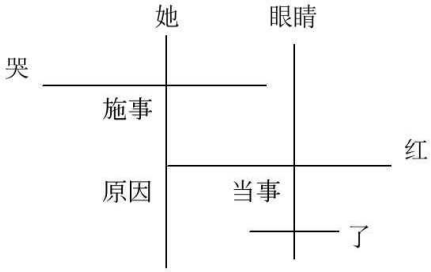


図12　（12a）の意味構造の図示

意味構造

① $_{施事}$她－$_{一項自動詞的}$哭

② $_{当事}$眼睛－$_{形容詞的}$红－$_{原因}$她－$_{時間的局面}$了

は，

① $_{施事}$她－$_{一項自動詞的}$哭

② $_{当事}$眼睛－$_{形容詞的}$红－$_{時間的局面}$了

の両者が図13のような過程を経て合成されるものであると考えられる。

合成の過程Ｉでは，“眼睛”のさす実体が事態“红”に関与することを，“她”のさす実体が引き起こすので，“她”が原因として事態“红”に接するようになる。

（12b）では，述語事態“笑”に“大家”のさす実体が主体として関与している。動詞“笑”が格フレーム“＜1＞施事＋V（一項自動詞）”を持っているので，“大家”の深層格は，施事となっている。一方，補語事態“疼”に“肚子”のさす実体が主体として関与している。“疼”が形容詞であるので，“肚子”の深層格は，当事となっている。

また，“肚子”のさす実体が補語事態“疼”に関与することを，“大家”のさす実体が引き起こすので，“大家”のさす実体が客体として補語事態“疼”にも関与している。その深層格は，原因である。

（12b）の意味構造は，

① $_{施事}$大家－$_{一項自動詞的}$笑

② $_{当事}$肚子－$_{形容詞的}$疼－$_{原因}$大家－$_{時間的局面}$了

となっている。図14は，その図示である。

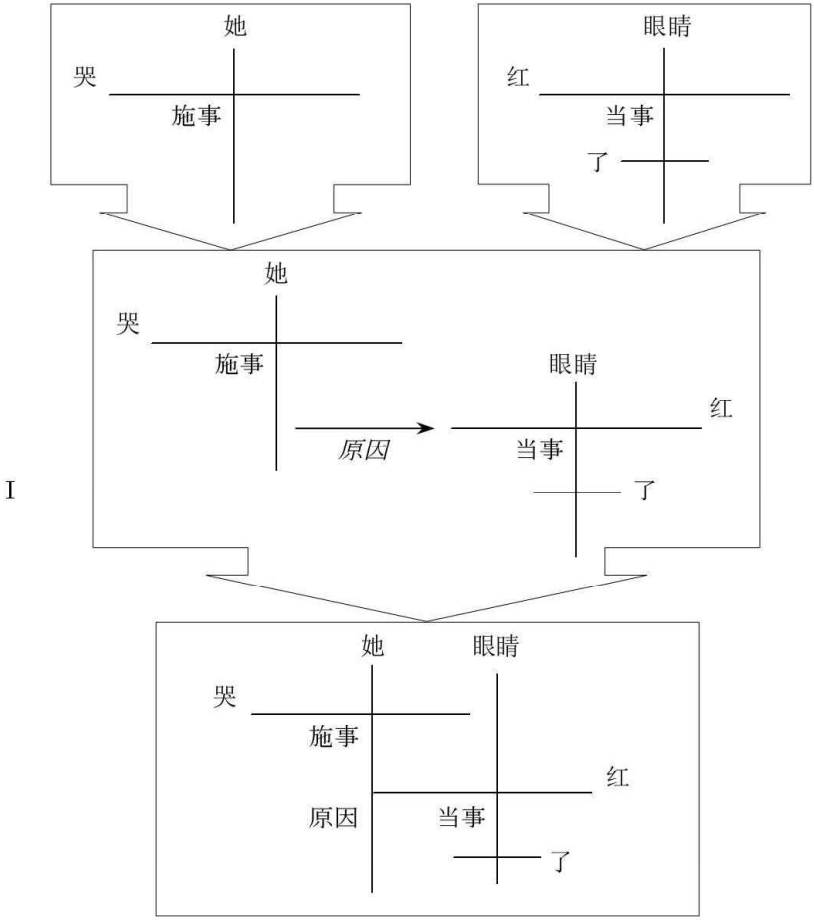


図13　（12a）の意味構造の合成

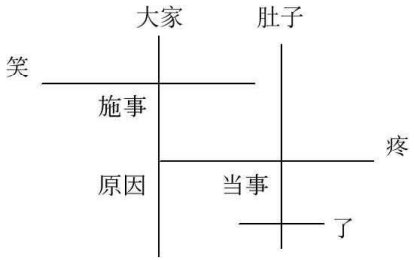


図14　（12b）の意味構造の図示

（12a）と同様に，（12b）の意味構造

① $_{施事}$大家－$_{一項自動詞的}$笑

② $_{当事}$肚子－$_{形容詞的}$疼－$_{原因}$大家－$_{時間的局面}$了

は，

① $_{施事}$大家－$_{一項自動詞的}$笑

② $_{当事}$肚子－$_{形容詞的}$疼－$_{時間的局面}$了

の両者が図15のような過程を経て合成されるものであると考えられる。

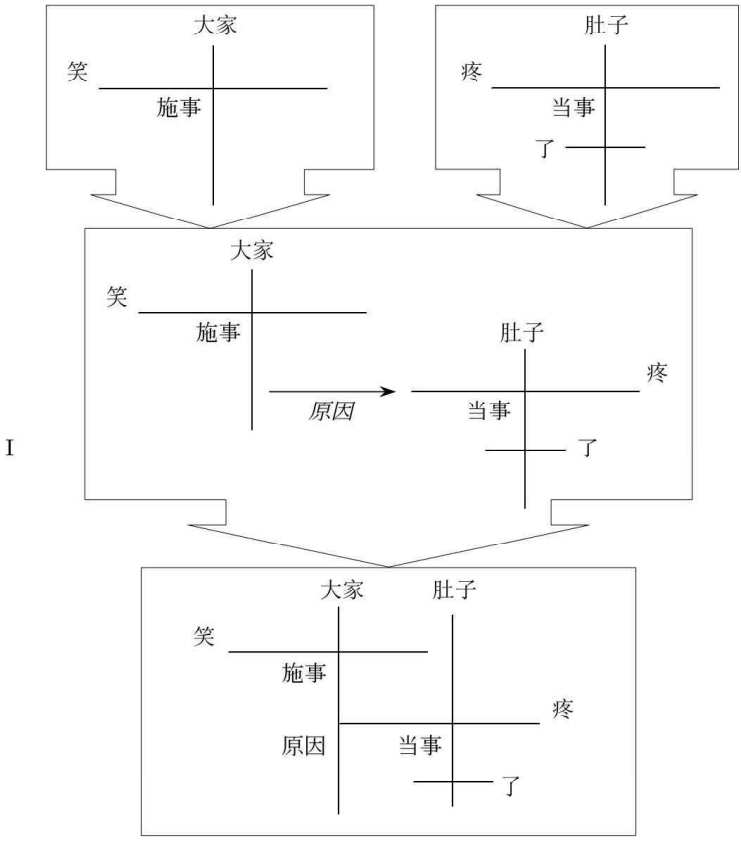


図15　（12b）の意味構造の合成

合成の過程Ｉでは，“肚子”のさす実体が事態“疼”に関与することを，“大家”のさす実体が引き起こすので，“大家”が原因として事態“疼”に接するようになる。

（12）の分析に基づいて，結果述補句を含む動詞性主述句（8d）の意味構造は，

① 述語事態主体－述語事態

② 補語事態主体－補語事態－$_{原因}$補語事態客体

（述語事態主体＝補語事態客体＝主語のさす実体；　補語事態主体＝目的語のさす実体）

と整理することができると考えられる。図16は，その図示である。

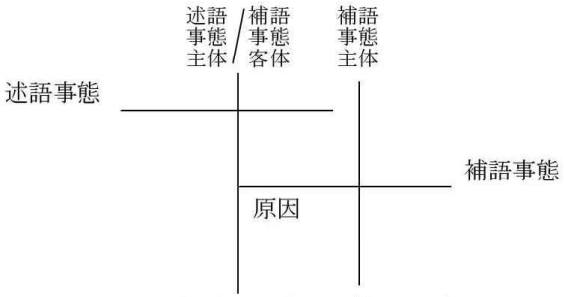


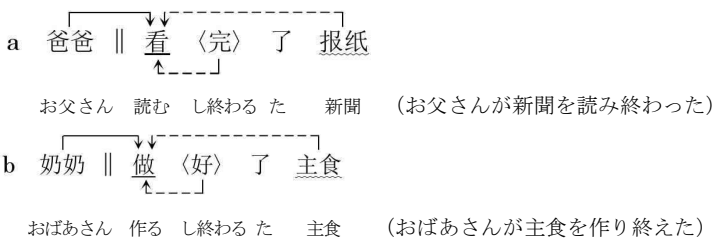
図16　（8d）の結果述補句を含む動詞性主述句の意味構造の図示

3.5　（8e）の意味構造

（8e）

（8e）では，主語と目的語のさす実体は，述語事態には，それぞれ主体と客体として関与している。補語事態は，述語事態の完成度の高さを語る補助事態である。(13)は，（8e）の例である。

（13）



（13a）では，述語事態“看”に“爸爸”と“报纸”のさす実体がそれぞれ主体と客体として関与している。動詞“看”が格フレーム“<3>施事＋V＋受事（V＝二項他動詞）”を持っているので，“爸爸”と“报纸”の深層格は，それぞれ施事と受事となっている。一方，補語事態“完”が表すのは，1つのまとまりとして認識されている事態や主体，客体ではなく，述語事態“看”の完成度の高さを語る補助事態である。

よって，（13a）の意味構造は，

$_{施事}$爸爸－$_{二項他動詞的}$看－$_{受事}$报纸－$_{完成度}$完－$_{時間的局面}$了

となっている。図17は，その図示である。

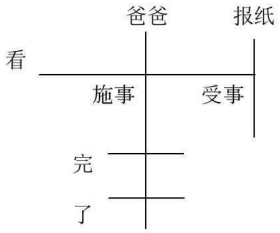


図17　（13a）の意味構造の図示

図17（及び図18と図19）では，長い水平線が述語事態を示し，上の短い水平線が補語事態を示し，中央の垂直線が述語事態の主体を示し，右側の垂直線が述語事態の客体を示している。下の短い水平線は，“了”の表す補助事態を示している。短い水平線の上下の順序は，語順に従っている。

（13b）では，述語事態“做”に“奶奶”と“主食”のさす実体がそれぞれ主体と客体として関与している。動詞“做”が格フレーム“＜3＞施事＋V＋受事（V＝二項他動詞）”を持っているので，“奶奶”と“主食”の深層格は，それぞれ施事と受事となっている。一方，補語事態“好”が表すのは，述語事態“做”の完成度の高さを語る補助事態である。

（13b）の意味構造は，

$_{施事}$奶奶－$_{二項他動詞的}$做－$_{受事}$主食－$_{完成度}$好－$_{時間的局面}$了

となっている。図18は，その図示である。

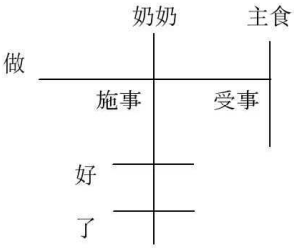


図18　（13b）の意味構造の図示

（13）の分析に基づいて，結果述補句を含む動詞性主述句（8e）の意味構造は，こう整理することができると考えられる。

述語事態主体－述語事態－述語事態客体－$_{完成度}$補語事態

（述語事態主体＝主語のさす実体；述語事態客体＝目的語のさす実体）

図19は，その図示である。

結果述補句は，文字通り「補語が述語の事態の結果を表す述補句」であるが，その述語と補語（述語事態と補語事態）との関係は，「結果」とは言い切れない。（8a，b，c，d）に含まれている結果述補句の述語事態と補語事態は，連続して起きる事態であり，後者が前者の「結果」だと言えるが，（8e）に含まれている結果述補句の補語事態は，字面から見れば，述語事態の「し終わる」という「結果」を表すのであるが，実質上「結果」ではなく，述語事態の完成度の高さを語る補助事態だと考えられる。

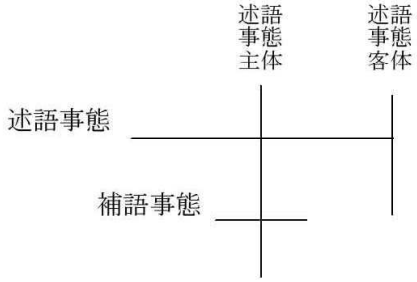


図19　（8e）の結果述補句を含む動詞性主述句の意味構造の図示

4　まとめ—結果述補句の意味構造

3節では結果述補句を含む動詞性主述句（8a，b，c，d，e）を考察した。ここでは，それらの意味構造，図示を表1にまとめておく。

表1(A,B,C)に示したように，（8a，b，c，d，e）に含まれている結果述補句は，次の3種類に分類することができる。

A 述語事態と補語事態が同じ主体を共有するもの
（（8a，b）に含まれている結果述補句）

B 述語事態の主体が補語事態の起きる原因であり，補語事態の客体となるもの
（（8c，d）に含まれている結果述補句）

C 補語事態が述語事態の完成度の高さを語る補助事態となるもの
（（8e）に含まれている結果述補句）

表1　結果述補句を含む動詞性主述句（8a，b，c，d，e）の意味構造，及び図示

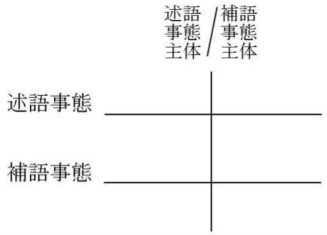
A 述語事態と補語事態が同じ主体を共有するもの

（8a）

{$_{主語}$語句}｛｛$_{述語}$動詞性語句｝｛$_{補語}$動詞・形容詞性語句｝｝

意味構造：① 述語事態主体－述語事態；② 補語事態主体－補語事態（述語事態主体＝補語事態主体＝主語のさす実体）

図示

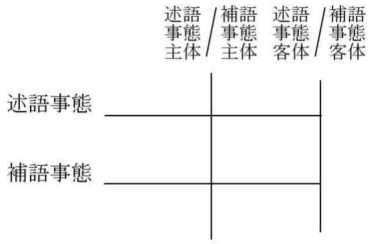


（8b）

{$_{主語}$語句}｛｛｛$_{述語}$動詞性語句｝｛$_{補語}$動詞・形容詞性語句｝｝｛$_{目的語}$語句｝｝

意味構造：① 述語事態主体－述語事態－述語事態客体；② 補語事態主体－補語事態－補語事態客体（述語事態主体＝補語事態主体＝主語のさす実体；述語事態客体＝補語事態客体＝目的語のさす実体）

図示



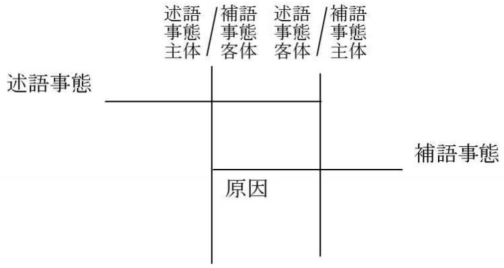
B 述語事態の主体が補語事態の起きる原因であり，補語事態の客体となるもの

(8c)

{$_{主語}$語句} {{{$_{述語}$動詞性語句} {$_{補語}$動詞・形容詞性語句}} {$_{目的語}$語句}}

意味構造：① 述語事態主体－述語事態－述語事態客体；② 補語事態主体－補語事態－$_{原因}$補語事態客体 (述語事態主体＝補語事態客体＝主語のさす実体；述語事態客体＝補語事態主体＝目的語のさす実体)

図示

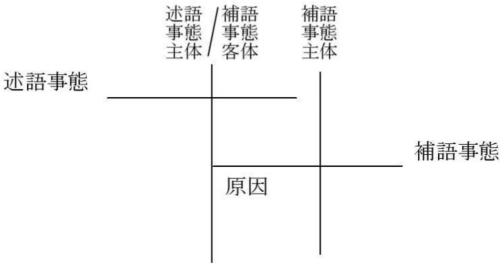


(8d)

{$_{主語}$語句} {{{$_{述語}$動詞性語句} {$_{補語}$動詞・形容詞性語句}} {$_{目的語}$語句}}

意味構造：① 述語事態主体－述語事態；② 補語事態主体－補語事態－$_{原因}$補語事態客体 (述語事態主体＝補語事態客体＝主語のさす実体；補語事態主体＝目的語のさす実体)

図示



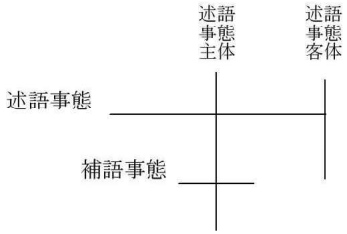
C 補語事態が述語事態の完成度の高さを語る補助事態となるもの

(8e)

{$_{主語}$語句} {{{$_{述語}$動詞性語句} {$_{補語}$動詞・形容詞性語句}} {$_{目的語}$語句}}

意味構造：述語事態主体－述語事態－述語事態客体－$_{完成度}$補語事態（述語事態主体＝主語のさす実体；述語事態客体＝目的語のさす実体）

図示



結果述補句 A，B，C の意味構造は次のようになっている。

A ①（述語事態主体－）述語事態
②（補語事態主体－）補語事態
（述語事態主体＝補語事態主体＝主語のさす実体）

B ①（述語事態主体－）述語事態
② 補語事態（－$_{原因}$補語事態客体）
（述語事態主体＝補語事態客体＝主語のさす実体）

C（述語事態主体－）述語事態－$_{完成度}$補語事態
（述語事態主体＝主語のさす実体）

これらを図示すると，図20のようになる（実線部分）。

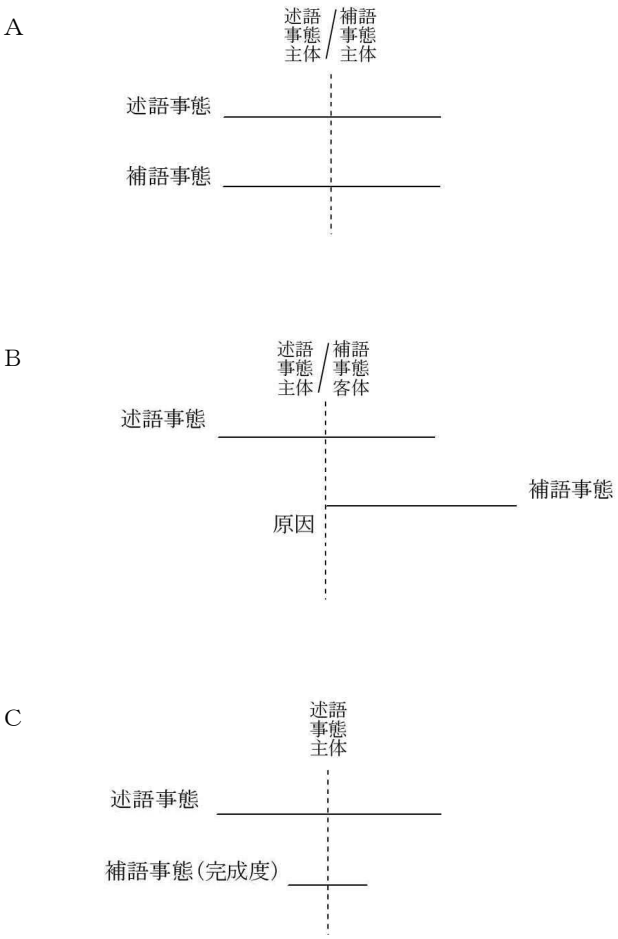


図20　結果述補句の意味構造の図示